

2004世界選手権参加レポート

於保 佐恵子 (FB648)

オーストラリアの Mildura で開催された 2004 熱気球世界選手権にオブザーバーとして参加しました。以下は簡単なレポートです。

オブザーバー参加決定まで。

気球連盟に参加希望をして間もなく不採用の通知がきました。では補欠にと思い再度参加希望しましたが、再度 不採用の連絡。仕方ない、参加できないと沈んでいたところ、チーフオブザーバーからの連絡。詳細を省けば「来ないの?」「行きたい。でも連盟の推薦無かったから行けない。」「来ていいよ。」と言う事でオブザーバーとして参加できるようになりました。連盟会員ですが連盟の推薦無いままに参加となりました。

競技は。

競技及び結果はすでにネットでご存知と思いますので、私がオブザーバーしたチームについて書きたいと思います。

緊張で望んだ初日はUSAチーム。4人で構成されていました。離陸・マーカー投下・着陸・マーカー計測までチーム側は何も問題なく終了。問題は私でした。GPSと地図の交点があわないと思いながらオブザーバーしていましたが、デブリーフィングで間違いが発覚。MapDatamがあっていなかった。大会前に合わせたはずだったのに。親切なデブリーフィアのおかげ競技者の不利になる事も無く事なきを得ました。初日から初歩的な失敗をしてしまいました。 午後はスタンバイ、結局キャンセルでした。

3日目午後はイタリアチーム。風のためキャンセルになるかもという状況でフライトの招待。今まで断ったことは無かったのですが、初めて拒否しました。後で後悔、離陸時に風は落ちていました。渋滞に会いマーカー投下・着陸共に見られず、着陸は地図南端ぎりぎりでした。マーカー回収のため、1軒の民家を訪問して無事回収・計測できました。その民家より1つのマーカーを待ち出されました。「去年見つけたから持っていたよ。」と。誰のだったのだろうか?今更、時効だよ!!

5日目午前モイタリアチーム。地元クルー2人を含め4人で構成。恐れていた5Task。マーカー投下もほとんど見られず、着陸は競技地図外・南でした。チェイス中カンガルーが目の前を横切っていく様を見られました。1つは交点近くでメジャー計測ができましたが、他は計測班による計測とGPS計測でした。どこまでも続く赤い大地を見ながらGPSがなかったらどうやって

計測するのかな・無い時代はどうやっていたのかな?と、今更、無駄な事を考えてしまいました。搜索期間が迫っていた為パイロットはカリカリしていました。のんきな地元クルーは叱られながら、でも時間内に発見できました。

最終日はリトアニアチーム。リトアニアからオーストラリアに移り住んで十数年という方が地元クルーとして参加されていました。気球は素人でドライバー・言葉対策として参加されていました。4Taskでしたが、FINのターゲットに集まったマーカー投下状況を上空から見ながら、さすが世界選手権だと感じました。マーカー計測も全てメジャーで測る事ができました。しかし、今大会では初めて地図上の交点を実在しない場面に遭遇するはめになりました。パイロットと話し交点を作り計測、終わったところで他のオブザーバーから「交点違うみたい。」と指摘を受けました。デブリーフィングで「交点もう1つありそう。」と報告しましたが、結果はそのまま適応されていました。こうやって、6日間4フライト13Taskは終わりました。

個人的に思った事。

大会側が選んだ共通交点リスト(302コ)がありましたが、競技者はほとんど活用されていなく独自のリストを使用していました。競技者の意思でしょうが。個人的には共通リストを使用してもらえばPDG・FONをはずしたときでもわざわざゴールに戻りGPS計測する必要はなく時間の短縮はでき、また、交点が路上に記されており交点を作る時間も短縮でき手間も省ける等と思いましたが・・・。 宿泊はモーターでした。他の部屋は2段ベットもあると聞いて、私たちは良かった方なのか、シングル2つとセミダブル1つでした。 部屋の外に共同キッチンがあり、スーパーに買出しに行き、迷シェフらの調理したカンガルーの肉入りパスタを食べることができました。食べた後も皆飲んでしゃべって歌って、明日も早いのにと思いつつ12時近くに寝ていました。 タスクキャンセル時は、チーフ始め地元オブザーバーにより、ブッシュウォーク・砂漠・クルージングなど案内してもらい、車がない私たちも楽しめました。

世界選手権2回目・海外でのオブザーバー初めてで、大会前から大変不安でした。早い時期から日本チーム選手権参加者MLがあり、また、現地でも色々な方々に助けられ・アドバイスをもらい無事オブザーバーを終えた事に感謝します。